

## 3月13日 フランス現代詩読書会：リオネル・レイ (Lionel Ray)

### 略歴

本名ロベール・ロロ (Robert Lorho)。1935年、マント＝ラ＝ヴィル (パリとルーアンの間に位置する) にて、ブルトン人の父とワロン地方 (ベルギー領) 出身の母との間に生まれる。1956年に第1詩集 *Les Chemins du soleil* (Debresse) を出版。1961年には第2詩集 *Si l'ombre cède* がガリマール社から出される。1965年には *Légendaire* (Seghers) でギヨーム・アポリネール賞を受賞。70～72年の間、ルイ・アラゴン編集の『レ・レトル・フランセーズ』で詩を発表。この頃からリオネル・レイという筆名を使い始める。

しかし、68年のことでした [...] 時代の空気もあり、私は市民と詩との同一性に対して距離を取るようになったのです。ロベール・ロロの名で書いたものは私には陳腐で、とても安易な抒情詩に見えました。「ポエジー」と言うよりも、人が言うような「ポエティスム」に陥っていたのです。だから私は分離へと身を委ねたのです。ポエジーは決然としてコミュニケーションの領域外に置かれました。[...] 数年後、私は意味やメッセージの拒否という神秘主義の誘惑を打ち捨て、韻文 (vers) へと戻りました。<sup>\*1</sup>



図1 Lionel Ray (1935-)

1968年 (発表自体は1970年) を境に、詩人ロベール・ロロ (R・L) は姿を消し、詩人リオネル・レイ (L・R) として生まれ変わる。1971年に出された詩集『伝記作者の変容』は題名通り、彼の詩的変革が表明されている<sup>\*2</sup>。ロベール・ロロとしてはカーニュ (グランゼコール準備学校) でフランス文学の教鞭を取っている。1973年から前衛詩誌 *Action Poétique* の編集に携わる (2000年まで)。以後、詩集は全てリオネル・レイ名義で書かれる。

### 主要著作

*Les Chemins du soleil*, Debresse, 1956.

*Légendaire*, Seghers, 1965. (prix Apollinaire)

*Les Métamorphoses du biographe*, Gallimard, 1971.

*L'interdit est mon opéra*, Gallimard, 1973.

*Le Corps obscur*, Gallimard, 1981. (prix Mallarmé)

*Nuages, nuit*, Gallimard, 1983.

*L'approche du lieu*, Ipomée, 1986.

*Une sorte de ciel*, Gallimard, 1990. (prix Antonin-Artaud)

*Comme un château défait*, Gallimard, 1993. (prix Supervielle, prix Goncourt de poésie)

*Syllabes de sable*, Gallimard, 1996.

*Pages d'ombre*, Gallimard, 2000. (grand prix de poésie de la société des gens de lettres, prix Kowalski, prix Guillevic)

*L'invention des bibliothèques*, Gallimard, 2007.

*Lettres imaginaires, vers et proses, Les écrits du Nord*, Editions Henry, 2010.

*Voix de femmes*, Editions Turquoise, 2012.



図2 Comité de rédaction d'Action Poétique (1970)

<sup>\*1</sup> [http://www.revue-secousse.fr/Secousse-02/Notes-lecture/Sks02-Cartier-Lettres\\_imaginaires.pdf](http://www.revue-secousse.fr/Secousse-02/Notes-lecture/Sks02-Cartier-Lettres_imaginaires.pdf)

<sup>\*2</sup> Pascal Boulanger, *Une « Action Poétique » de 1950 à aujourd'hui*, Flammarion, 1998, p. 63.

## 不確定の詩—La Poésie aléatoire (1973)

私は祝祭として、策略の遊びとして、詞歌集の即興として詩を、そして勝利した地理のもとで、偶然＝運命 (hasard) へ向かって、みずからの雷雨のざわめきを刻みこんだ詩を思い描いてきた。不条理なのは私の体調だろう！五月の花の陽気さのように尽きることのない私の体調。私の理性と、何らかの怪しげな科学、医学、数学、占星術…の王国で、光 (jour) の目と鼻の先で立ち止まるこの散歩者がいる。太陽が差し込んで穏やかな反対側を見つめつつ、抽象的な光輝が約束された、彼の未来の足跡を見つめつつ、彼が乗り越えない敷居とはどのようなものか。打ち棄てられたテクスト。私は思い出さず、私は創造する。それは今にも落ちようとしているが、落ちることはないであろう雷のような言葉だ。だから、こうした不意の出現やト占<sup>アルファベ</sup>の手引き、そして見世物を隠すまなざしとの間の距離を測りなさい (mesurez)。言葉は玄関だ、入りたまえ、これは私の好意だ。あちらでは窓は閉まり、こちらでは新鮮な水のような、誘惑のような私の嫌悪。ああ！忘れていた。

リオネル・レイ

慎みのない言い方をすれば、(この名は) ユートピアに、幻の部屋に捧げられた自らの相続人である。おそらく、あなたは一度も鏡を見たことがなかったのでは？ なんていう明晰さへの挑戦、実に的確なこの歓喜、あらゆる拍節 (mesure) の不確定性よ！以上が私の儀礼であり、未来の傷痕と同じように、どこかで後戻りする登り階段の踊り、計画、形象化、礼法、靈感である。

## 道—Les Chemins (1986)

道は真実であり、想像もできない。  
大地は見せてくれる。水 車輪  
染められた絹糸がある。収穫する染み  
それは薄暗く明るい。光が凍る。

それらは逃げた道だ。大地は逃がさない。  
消滅する波。生成する石。  
羽の丘は青色。黄緑色。  
かつて愛した者たちの鏡。この靄  
牧草地の赤銅色の上に浮かぶこの若々しい朝の靄。

放棄の道（眼差しと身振りには別の  
方面があった）平和なぶどう畑  
それはもはやぶどう畑ではなかった。雲に覆われた馬  
これも馬ではなかった。そこにあるのは  
6月と別の方面だ。私にはどんなものかわからない

臉と手のひらの間の道がどんなものか。ある  
答えが問いかける。鈍い水のように。  
この水の中にある一枚の葉。ひとつの動き。  
かろうじてひとつの動き。そしてそれはまるで  
均衡の中にあるのは身振りと声

道が耐えているかのようだった。神経と

空腹の道。と記憶の道。こうした  
心の雷雨にある雲間。この川  
焼けつき見えなくないこの川。そして夜  
痕跡を曇らせる夜。そして言葉はわからない。

## 砂の音節—<sup>シラブル</sup>Syllabes de sable (1996)

砂のシラブル、それは夏、  
まったく動かず  
動いても、世界と切り離されていて、  
お前の中で起き上がるのはこの死者、  
  
お前はそれを知っている、  
お前は侮辱され、お前は辱められる  
それをすべて見るお前。

来なさい、私がお前を連れて行こう  
時の動乱の中へと  
そこは見せかけの日々からは  
遠く離れている

眠りのように白い  
この泡の輪郭まで  
向こうに見えるのは雲、忘却。